

特別企画：第 15 回大阪府下メインバンク調査（2023 年）

りそなHDがシェア 22.2%

～メガはシェアダウン、地銀・信金が社数増～

はじめに

長年続いた未曾有の低金利時代に幕を下ろし、今後は金利のある世界が始まる。そんななか、関西では地方銀行に大きな動きが出ている。10 月には関西の地方銀行の雄である京都銀行が持ち株会社に移行し、京都フィナンシャルグループが始動。さらに、関西みらい銀行とみなと銀行を傘下に持つ関西みらいフィナンシャルグループが、りそなホールディングス（HD）に吸収合併されることが決定するなど、銀行組織の再編が進んでいる。

コロナ禍で疲弊した中小企業への銀行支援は資金繰りから経営再建へと移っており、本業支援や事業承継、人材育成など多様化するニーズに対応する必要性が高まっている。また、人口減少に伴って地域の課題が浮き彫りになるなかで、地域金融機関の在り方にも特色が出始め、企業側は資金供給以外にも自社にあったサービスを提供してくれるメインバンクを求める傾向が強まっている。特に大阪府は金融機関の選択肢が多く、今後メインバンクシェアに変化が表れる可能性が高い。

帝国データバンク大阪支社では、2023 年 10 月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」に収録されている大阪府下企業（106,598 社）がメインバンクと認識している金融機関について抽出し、集計した。なお、調査対象は全業種全法人で、個人経営も含む。同調査は 2022 年 12 月に続き 15 回目。

※ 本調査は「COSMOS2」に収録されている企業のデータであるため、各金融機関がメインとして取引している実数とは異なる。また、一企業に複数のメインがあるケースでは、企業が最上位として認識している金融機関を集計した

調査結果（要旨）

1. 大阪府下のメインバンクは「三井住友銀行」が 4 年連続で首位、「三菱 UFJ 銀行」が 2 位となった。3 位と 4 位には同じグループの「りそな銀行」と「関西みらい銀行」が並ぶ。メガバンクがシェアを下げると一方で、地銀・信金がシェアを上げている
2. 地域別では、企業数の最も多い大阪市内地区など 2 地区で「三菱 UFJ 銀行」、大阪南地区で「三井住友銀行」が首位。大阪北地区では 1 位の「北おおさか信金」がシェアを拡大している
3. 業種別では、「三井住友銀行」が 4 業種で、「三菱 UFJ 銀行」が 3 業種で首位となった。各業種とも 10 位までの顔ぶれは変わらないものの、7 業種中 5 種で順位変動があった

1. メガがトップ2を堅持も、地銀・信金が社数を伸ばす

大阪府下のメインバンク企業数は、「三井住友銀行」が17,809社（前年比197社減、構成比16.7%、同比0.3ポイント減）と社数、シェアは下げたものの、4年連続首位。2位は「三菱UFJ銀行」の17,676社（同206社減、同0.3ポイント減）。「みずほ銀行」は4,456社（同59社減、同0.1ポイント減）で8位。メガバンクは3行ともに社数、シェアを下げている、近年この傾向が続いている。

3位の「りそな銀行」は12,721社（同116社増、同横ばい）。来年4月にりそなHDの子会社となる「関西みらい銀行」は10,719社（同14社増、同横ばい）で4位。24位の「みなと銀行」を含めた同HDのシェアは22.2%。6位の「池田泉州銀行」と10位の「紀陽銀行」は社数を増やした。

信用金庫では、「大阪シティ信金」が109社増でシェアを伸ばし、「大阪信金」は165社増で最も社数を増やした。「北おおさか信金」も105社増となり、地域を支えるトップ3の信金はいずれも100社以上増加した。上位10行のシェアは83.2%となり、前年比0.3ポイント減となった。

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	三井住友	17,809	16.7%
2	三菱UFJ	17,676	16.6%
3	りそな	12,721	11.9%
4	関西みらい	10,719	10.1%
5	大阪シティ信金	7,020	6.6%
6	池田泉州	6,048	5.7%
7	大阪信金	5,399	5.1%
8	みずほ	4,456	4.2%
9	北おおさか信金	4,185	3.9%
10	紀陽	2,627	2.5%
11	尼崎信金	2,144	2.0%
12	京都	1,170	1.1%
13	永和信金	1,068	1.0%
14	枚方信金	853	0.8%
15	大阪商工信金	755	0.7%
16	南都 商工中金	679	0.6%
18	京都信金	636	0.6%
19	徳島大正	477	0.4%
20	大阪厚生信金	430	0.4%
21	阿波	394	0.4%
22	近畿産業信組	308	0.3%
23	ゆうちよ	296	0.3%
24	みなと	260	0.2%
25	のぞみ信組	244	0.2%
26	北陸	233	0.2%
27	成協信組	178	0.2%
28	京都中央信金	172	0.2%
29	香川	154	0.1%
30	三十三	143	0.1%
31	百十四	121	0.1%
32	大同信組	114	0.1%
33	楽天	110	0.1%
34	滋賀	106	0.1%
35	大阪協栄信組	94	0.1%
36	PayPay	92	0.1%
37	伊予	87	0.1%

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
38	四国	79	0.1%
39	ミレ信組	72	0.1%
40	きのくに信金	65	0.1%
41	住信SBIネット	56	0.1%
42	三井住友信託	54	0.1%
43	但馬	52	-
44	大阪中河内農協	50	-
45	愛媛	49	-
46	北国	43	-
47	大阪南農協 日本政策金融公庫	38	-
49	山陰合同	37	-
50	中国	35	-
51	名古屋	34	-
52	GMOあおぞらネット	32	-
53	いずみの農協	31	-
54	大阪泉州農協	30	-
55	大阪府医師信組	29	-
56	福井 播州信金	25	-
59	北河内農協	25	-
59	大阪市農協	24	-
60	広島	23	-
61	三菱UFJ信託	21	-
62	近畿労金	20	-
63	SBJ 高知	19	-
65	十六	18	-
66	大垣共立	17	-
67	福岡 グリーン大阪農協	16	-
69	十八親和 大阪北部農協	15	-
71	静岡 農林中金	13	-
71	大阪府信連	13	-
74	西日本シティ	12	-

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
75	トマト	11	-
76	百五 奈良信金	10	-
76	横浜	9	-
78	山口	9	-
78	大分	9	-
78	鹿児島	9	-
78	日新信金	9	-
78	高槻市農協	9	-
78	大阪東部農協	9	-
85	東京スター	8	-
85	大和信金	8	-
85	神戸信金	8	-
85	全信組連	8	-
85	茨木市農協	8	-
90	千葉	7	-
90	きらぼし	7	-
90	印度	7	-
90	福邦	7	-
90	大阪貯蓄信組	7	-
90	中央信組	7	-
96	鳥取	6	-
96	肥後	6	-
96	琉球	6	-
96	SBI新生	6	-
96	あおぞら	6	-
96	ハナ	6	-
96	兆豊国際商業	6	-
96	愛知	6	-
96	中京	6	-
96	信金中央金庫	6	-
96	奈良中央信金	6	-
96	兵庫ひまわり信組	6	-
96	堺市農協	6	-
96	未詳	4,335	4.1%

参考資料

前回メインバンク調査（2022年12月発表）

順位	金融機関名	社数	構成比 (%)	順位	金融機関名	社数	構成比 (%)	順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	三井住友	18,006	17.0%	39	ミレ信組	69	0.1%	76	福邦	10	-
2	三菱UFJ	17,882	16.9%	40	きのくに信金	62	0.1%		茨木市農協	10	-
3	りそな	12,605	11.9%	41	但馬	52	-	79	百五	9	-
4	関西みらい	10,705	10.1%		三井住友信託	52	-		日新信金	9	-
5	大阪シティ信金	6,911	6.5%	43	愛媛	50	-		きらぼし	8	-
6	池田泉州	5,959	5.6%		大阪中河内農協	50	-		横浜	8	-
7	大阪信金	5,234	4.9%	45	北国	43	-		大分	8	-
8	みずほ	4,515	4.3%	46	住信SBIネット	42	-		鹿児島	8	-
9	北おおさか信金	4,080	3.9%	47	日本政策金融公庫	40	-	81	東京スター	8	-
10	紀陽	2,600	2.5%	48	山陰合同	36	-		奈良信金	8	-
11	尼崎信金	2,101	2.0%	49	中国	35	-		大和信金	8	-
12	京都	1,111	1.0%		名古屋	35	-		神戸信金	8	-
13	永和信金	1,048	1.0%	51	大阪南農協	34	-		全信組連	8	-
14	枚方信金	768	0.7%	52	いずみの農協	33	-		大阪東部農協	8	-
15	大阪商工信金	732	0.7%	53	大阪府医師信組	27	-		新生	7	-
16	商工中金	683	0.6%		大阪泉州農協	27	-		印度	7	-
17	南都	663	0.6%	55	福井	26	-	91	兆豊国際商業	7	-
18	京都信金	609	0.6%	56	北河内農協	25	-		奈良中央信金	7	-
19	徳島大正	463	0.4%	57	大阪市農協	23	-		大阪貯蓄信組	7	-
20	大阪厚生信金	427	0.4%	58	三菱UFJ信託	21	-		中央信組	7	-
21	阿波	382	0.4%		播州信金	21	-		鳥取	6	-
22	近畿産業信組	305	0.3%	60	広島	20	-		肥後	6	-
23	ゆうちょ	290	0.3%		近畿労金	20	-		あおぞら	6	-
24	みなと	265	0.3%	62	十六	19	-	97	ハナ	6	-
25	のぞみ信組	253	0.2%	63	高知	18	-		愛知	6	-
26	北陸	226	0.2%	64	大垣共立	17	-		中京	6	-
27	成協信組	177	0.2%		GMOあおぞらネット	16	-		信金中央金庫	6	-
28	京都中央信金	158	0.1%	65	SBJ	16	-		兵庫ひまわり信組	6	-
29	三十三	150	0.1%		グリーン大阪農協	16	-		高槻市農協	6	-
30	香川	141	0.1%		十八親和	15	-		堺市農協	6	-
31	大同信組	122	0.1%	68	大阪北部農協	15	-		武蔵野	5	-
32	百十四	121	0.1%	70	大阪府信連	14	-		佐賀	5	-
33	滋賀	106	0.1%		福岡	13	-	107	琉球	5	-
34	大阪協栄信組	92	0.1%	71	農林中金	13	-		みずほ信託	5	-
35	楽天	89	0.1%	73	西日本シティ	12	-		姫路信金	5	-
36	伊予	87	0.1%		トマト	12	-		兵庫信金	5	-
37	四国	78	0.1%	75	静岡	11	-	-	未詳	4271	4.0%
38	PayPay	77	0.1%	76	山口	10	-				

2. 地域別ランキング

地域別では、大阪府下を①大阪市内②大阪北③大阪東④大阪南の4ブロックに分別した。（注1）

①大阪市内地区

最も社数が多い大阪市内地区に本社を置く企業のメインバンクを見てみると、1位「三菱UFJ銀行」と2位「三井住友銀行」は、前回調査から100社以上社数を減らし、シェアを落とした。6位「みずほ銀行」も34社減少、メガバンク3行がいずれも社数を減らした。

上位10位に入った地銀・信金は全て社数を伸ばす結果となった。順位こそ変わらないものの、5位「大阪シティ信金」は60社増、7位「大阪信金」は77社増となり、社数、シェアともに伸ばしている。

11位以降の10行のうち7行が社数を伸ばした。メガバンクから、信金や地銀など地域金融機関への分散が進んでいることが分かる。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	10,392	20.0%
2	(2)	三井住友	10,018	19.3%
3	(3)	りそな	6,921	13.3%
4	(4)	関西みらい	4,809	9.3%
5	(5)	大阪シティ信金	3,429	6.6%
6	(6)	みずほ	2,884	5.6%
7	(7)	大阪信金	2,235	4.3%
8	(8)	池田泉州	1,466	2.8%
9	(9)	北おおさか信金	1,337	2.6%
10	(10)	尼崎信金	1,051	2.0%
11	(11)	永和信金	703	1.4%
12	(12)	大阪商工信金	418	0.8%
13	(13)	紀陽	397	0.8%
14	(14)	商工中金	310	0.6%
15	(15)	大阪厚生信金	244	0.5%
16	(16)	阿波	227	0.4%
17	(17)	近畿産業信組	219	0.4%
18	(18)	京都	204	0.4%
19	(20)	徳島大正	202	0.4%
20	(18)	みなと	192	0.4%

②大阪北地区

大阪北地区では、1位は「北おおさか信金」で63社増、シェアを0.2ポイント伸ばした。

2017年に当地区で初めて首位になってから7年連続でトップを堅持している。一方で、2位「三井住友銀行」、3位「三菱UFJ銀行」は社数、シェアともに落としており、地元信金がメガバンクのシェアを獲得する傾向が見て取れる。4位「りそな銀行」、5位「池田泉州銀行」の社数は微増、6位「関西みらい銀行」は微減となった。

「京都銀行」、「京都信金」、「京都中央信金」の京都勢が社数を伸ばしており、当地区で存在感を見せている。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	北おおさか信金	2,373	17.9%
2	(2)	三井住友	1,945	14.7%
3	(3)	三菱UFJ	1,773	13.4%
4	(4)	りそな	1,369	10.3%
5	(5)	池田泉州	1,349	10.2%
6	(6)	関西みらい	1,195	9.0%
7	(7)	尼崎信金	497	3.8%
8	(8)	みずほ	449	3.4%
9	(9)	京都	293	2.2%
10	(10)	大阪信金	226	1.7%
11	(11)	大阪シティ信金	153	1.2%
12	(12)	京都信金	134	1.0%
13	(13)	京都中央信金	79	0.6%
14	(15)	ゆうちょ	51	0.4%
15	(14)	商工中金	50	0.4%
16	(16)	みなと	45	0.3%
17	(18)	滋賀	29	0.2%
18	(17)	のぞみ信組	27	0.2%
19	(19)	阿波	23	0.2%
20	(20)	徳島大正	22	0.2%

③大阪東地区

大阪市内地区に続き企業数が多く、金融激戦区である大阪東地区では、「三菱UFJ銀行」が首位を堅持した。2位は「関西みらい銀行」。21社増の「大阪シティ信金」が3位に浮上し、前回15社差あった「三井住友銀行」と順位が入れ替わった。

「枚方信金」が「みずほ銀行」を抜いて6位にランクアップ。8位の「大阪信金」は700社を超えた。「京都信金」「北おおさか信金」なども順調に社数を増やしているほか、「大阪商工信金」が14位に浮上した。

東大阪市や八尾市など、大阪府下のなかでも特に中小零細企業が集積する地域を多く抱える当地区では、地元根付いた信用金庫が勢力を拡大している。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	3,032	14.1%
2	(2)	関西みらい	2,926	13.6%
3	(4)	大阪シティ信金	2,860	13.3%
4	(3)	三井住友	2,851	13.3%
5	(5)	りそな	2,047	9.5%
6	(7)	枚方信金	806	3.8%
7	(6)	みずほ	767	3.6%
8	(8)	大阪信金	701	3.3%
9	(9)	京都	624	2.9%
10	(10)	池田泉州	477	2.2%
11	(11)	京都信金	466	2.2%
12	(12)	北おおさか信金	457	2.1%
13	(13)	永和信金	293	1.4%
14	(15)	大阪商工信金	273	1.3%
15	(14)	南都	267	1.2%
16	(16)	尼崎信金	259	1.2%
17	(17)	紀陽	197	0.9%
18	(18)	商工中金	147	0.7%
19	(19)	徳島大正	140	0.7%
20	(20)	大阪厚生信金	108	0.5%

④大阪南地区

唯一、金融機関の本店がない大阪南地区では、1位「三井住友銀行」が29社減となり、3000社を割り込んだ。2位「池田泉州銀行」は前回の116社増に続き、今回も53社増となり、元泉州銀行の地盤での強さが際立っている。

「三菱UFJ銀行」は23社減となったが、3位を堅持。4位「りそな銀行」は44社増、5位「大阪信金」は49社増となった。メガバンクが社数を減らし、地銀や信金が伸ばす構図は他地域と変わらない。

「紀陽銀行」が6位で10%以上のシェアを有するほか、「きのくに信金」も順位を上げるなど、隣接する和歌山県勢が存在感を見せている。

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	2,995	15.0%
2	(2)	池田泉州	2,756	13.8%
3	(3)	三菱UFJ	2,479	12.4%
4	(4)	りそな	2,384	11.9%
5	(5)	大阪信金	2,237	11.2%
6	(6)	紀陽	2,019	10.1%
7	(7)	関西みらい	1,789	8.9%
8	(8)	大阪シティ信金	578	2.9%
9	(9)	みずほ	356	1.8%
10	(10)	尼崎信金	337	1.7%
11	(11)	南都	235	1.2%
12	(12)	商工中金	172	0.9%
13	(13)	成協信組	117	0.6%
14	(13)	徳島大正	113	0.6%
15	(15)	阿波	78	0.4%
16	(16)	永和信金	65	0.3%
17	(18)	きのくに信金	59	0.3%
	(20)	大阪厚生信金	59	0.3%
19	(17)	三十三	56	0.3%
	(20)	大阪商工信金	56	0.3%

3. 業種別ランキング

業種別のTOP10のランキングを見ると、前回調査から各業種の上位10行の顔ぶれに変動はなかった。「三井住友銀行」が「建設業」「小売業」「不動産業」「運輸・通信業」の4業種で、「三菱UFJ銀行」が「製造業」「卸売業」「サービス業」の3業種でトップとなった。「建設業」で「関西みらい銀行」が3位「三菱UFJ銀行」との差を広げ2位を堅持した。他の6業種では、メガバンク2行が2位を占めた。

7業種中、「建設業」「製造業」「卸売業」「不動産業」「運輸・通信業」の5業種で順位の変動があった。「製造業」で「池田泉州銀行」が、「卸売業」では「大阪シティ信金」が順位を上げた。「不動産業」は、「りそな銀行」が同じグループの「関西みらい銀行」を抜き3位に浮上したほか、「大阪シティ信金」が8位から6位にジャンプアップした。「建設業」では、「大阪シティ信金」が「池田泉州銀行」を抜いて順位を上げる一方で、「運輸・通信業」は「池田泉州銀行」が「大阪信金」を抜いて6位となるなど、地元金融機関同士のシェア争いも激化している。

【建設業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	4,349	14.7%
2	(2)	関西みらい	4,194	14.2%
3	(3)	三菱UFJ	4,172	14.1%
4	(4)	りそな	3,368	11.4%
5	(6)	大阪シティ信金	2,118	7.2%
6	(5)	池田泉州	2,100	7.1%
7	(7)	大阪信金	2,080	7.0%
8	(8)	北おおさか信金	1,993	6.7%
9	(9)	紀陽	831	2.8%
10	(10)	尼崎信金	747	2.5%

【製造業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	2,288	15.9%
2	(2)	三井住友	2,252	15.6%
3	(3)	大阪シティ信金	1,888	13.1%
4	(4)	りそな	1,472	10.2%
5	(5)	関西みらい	1,168	8.1%
6	(6)	大阪信金	762	5.3%
7	(8)	池田泉州	711	4.9%
8	(7)	みずほ	704	4.9%
9	(9)	北おおさか信金	495	3.4%
10	(10)	紀陽	421	2.9%

【卸売業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	3,699	21.1%
2	(2)	三井住友	3,319	18.9%
3	(3)	りそな	2,247	12.8%
4	(4)	関西みらい	1,427	8.1%
5	(6)	大阪シティ信金	1,195	6.8%
6	(5)	みずほ	1,193	6.8%
7	(7)	池田泉州	849	4.8%
8	(8)	大阪信金	661	3.8%
9	(9)	北おおさか信金	425	2.4%
10	(10)	尼崎信金	384	2.2%

【小売業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	1,326	17.3%
2	(2)	三菱UFJ	1,227	16.0%
3	(3)	りそな	923	12.0%
4	(4)	関西みらい	821	10.7%
5	(5)	池田泉州	574	7.5%
6	(6)	大阪信金	400	5.2%
7	(7)	大阪シティ信金	386	5.0%
8	(8)	みずほ	370	4.8%
9	(9)	北おおさか信金	277	3.6%
10	(10)	紀陽	261	3.4%

【不動産業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	1,535	16.8%
2	(2)	三菱UFJ	1,420	15.5%
3	(4)	りそな	1,090	11.9%
4	(3)	関西みらい	1,089	11.9%
5	(5)	大阪信金	487	5.3%
6	(8)	大阪シティ信金	360	3.9%
7	(7)	みずほ	349	3.8%
8	(6)	池田泉州	347	3.8%
9	(9)	北おおさか信金	344	3.8%
10	(10)	紀陽	180	2.0%

【運輸・通信業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三井住友	755	19.4%
2	(2)	三菱UFJ	591	15.2%
3	(3)	りそな	481	12.4%
4	(4)	関西みらい	338	8.7%
5	(5)	大阪シティ信金	273	7.0%
6	(7)	池田泉州	228	5.9%
7	(6)	大阪信金	222	5.7%
8	(8)	みずほ	164	4.2%
9	(9)	北おおさか信金	141	3.6%
10	(10)	紀陽	117	3.0%

【サービス業】

順位	前回順位	金融機関名	社数	構成比 (%)
1	(1)	三菱UFJ	4,074	17.4%
2	(2)	三井住友	4,059	17.3%
3	(3)	りそな	3,037	12.9%
4	(4)	関西みらい	1,614	6.9%
5	(5)	池田泉州	1,193	5.1%
6	(6)	みずほ	906	3.9%
7	(7)	大阪シティ信金	785	3.3%
8	(8)	大阪信金	772	3.3%
9	(9)	北おおさか信金	491	2.1%
10	(10)	紀陽	459	2.0%

4. まとめ

今回の調査では「三井住友銀行」が17,809社で4年連続首位、4年前に首位だった「三菱UFJ銀行」が2位となった。初回調査から2行で1位・2位を独占しているが、年々シェアを下げている。代わりに、大阪府下の地方銀行や信用金庫がシェアを上げるほか、府外の地域金融機関も勢いを強めている。メガバンク、地方銀行、信用金庫、地元以外の金融機関、政府系金融機関などのすみ分けが徐々に明確となるなか、メインバンクに求められる役割は多様化している。

特に、2020年に始まった新型コロナ関連融資をきっかけとして、地銀や信金が今まで融資を行っていなかった層の企業と取引を開始することで社数を伸ばした。今年は、この新型コロナ関連融資が本格的な返済フェーズに入り、伴走支援による借り換えなど新たな動きが出てきた。それでも、2023年の大阪府の倒産件数はコロナ前の水準に戻ることが確実となった。企業を取り巻く環境は、資材価格やエネルギー価格、人件費の高騰に加えて、為替変動、人手不足、金利上昇、中国経済の減退などにより厳しさを増している。地域を支える地域金融機関としてどのように企業に寄り添い、本業支援を行っていくかが問われることとなる。

その一方で、大阪府の特徴として多行取引企業が多いことが挙げられる。多行取引によりメインバンクの貸出シェアは抑えられる一方で、大規模投資や事業承継、企業再建など経営の転換点では他の取引行との協調が欠かせない。取引先企業が安定して資金を調達し成長するためには、メインバンクが強みや特性を深く理解するだけでなく、他の取引行との関係性を良好に保つ調整役と事業支援を押し進める旗振り役としての役割を求められる。

今後、取引先の事業が複雑化するなかでメインバンクに選ばれるためには、組織として今まで以上に独自色を発揮し、高い専門性を持つことで多様な経営課題を解決できる能力を高める必要があるだろう。

（*注1）

大阪府下の地域別は、①大阪市内地区（大阪市内24区）②大阪北地区（豊中市、池田市、吹田市、高槻市、茨木市、箕面市、摂津市、三島郡、豊能郡）③大阪東地区（守口市、枚方市、八尾市、寝屋川市、大東市、柏原市、門真市、東大阪市、四條畷市、交野市）④大阪南地区（堺市内7区、岸和田市、泉津市、貝塚市、泉佐野市、富田林市、河内長野市、松原市、和泉市、羽曳野市、高石市、藤井寺市、泉南市、大阪狭山市、阪南市、泉北郡、泉南郡、南河内郡）の4ブロックに分別。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 大阪支社情報部 担当：白濱雄介

TEL：06-6441-3100 E-mail：yuusuke.shirahama@mail.tdb.co.jp

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。

著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。